

平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨水害の検証検討について

1. 目的

平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨水害は、今後の信濃川下流部の河川整備を検討する上で重要な事案を多く含んでいる。そのため、今次の水害を対象とし、信濃川下流部に広がる越後平野におけるこれまでの河川整備、今次の水防、避難に関する検証作業を実施し、新潟・福島豪雨水害を教訓として、信濃川下流域の河川整備、及び今後の治水対策に関する基本的な方向性を検討していく。

2. 検証の実施方法

(1) 第1段階：現地検証

学識者を中心とした現地検証チームを設置し、現地で生じた事案の検証作業を委託する。検証の具体テーマは a)気象、水理・水文条件、b)16年豪雨対策の効果、c)超過洪水の発生状況、d)ダムが果たした役割、e)危機管理（情報、水防、避難）として、10月末を目標に検証作業を行う。

(2) 第2段階：新潟・福島豪雨水害を教訓とする今後の治水方策の検討

地域の自治体、有識者からなる懇談会により、現地検証チーム成果（中間段階を含め）を踏まえて、新潟・福島豪雨水害を教訓とした今後の治水方策に関して検討頂く。年末を目途として、新潟・福島豪雨を教訓として、信濃川下流域の河川整備の方向性、及び今後の治水方策に関して提言をとりまとめて頂く。